

## 校長だより(令和3年9月)

群馬県立藤岡特別支援学校長 須川 史子

例年になく不安定な気候の夏となりました。豪雨の被害は凄まじく、西日本を中心に各地で被害が相次ぎ多くの方が犠牲となったり被災されたりしました。被災された皆様には、心よりお見舞い申し上げます。



さて、40日間の夏休みが終わり、いよいよ2学期が始まりました。充実した夏休みを過ごすことができたでしょうか。既にご案内のとおり、コロナウイルス感染症の猛威はとどまるところを知らず、現在、県内全域に緊急事態宣言が発出されています。県立学校では、9月12日(日)までの期間を健康観察期間として、分散登校を実施いたします。保護者の皆様におかれましては、お子様の居場所の確保等、連絡調整について大変お世話になっております。よろしくお願いいたします。

2学期も新型コロナウイルス感染防止策を丁寧に行いながら、実施可能な行事については創意工夫を加えながら進めてまいりたいと思います。2学期は、藤特祭や、修学旅行、高等部では現場実習など、対外的な行事がたくさん予定されています。学校で身につけた力を社会の中で発揮していけるよう指導してまいります。ご家庭でも子どもたちの頑張りに応援をよろしくお願いいたします。

特別支援教育では、さまざまな人や組織がつながってともに活動することが、とても大切です。PTAの活動も立ち上げ当初からの企画が今に「つながっている」と感じる場面が多々あります。コロナ禍ではありますが、今後も保護者の皆様には、さまざまなことをお願いしなければなりません。皆様の日頃のご協力に感謝申し上げますとともに、今後ともご理解とご協力をお願い申し上げます。

### ◆夏休みの活動を振り返る(生徒)

昨年度より県内10校の各特別支援学校で計画・準備を進めてきた『東京2020パラリンピック聖火フェスティバル採火式』を、本校においても8月16日(月)、生徒会役員に集ってもらい、高等部棟キャノピー下で開催しました。

当日はあいにくの空模様でしたが、前の週に行ったりハーサルの成果が発揮されて、見事に古代の技術「まいぎり式」により火を起こして採火し、無事ランタンに火を灯すことができました。炎は開催中のパラリンピックの聖火の一部となって今も燃え続けています。

当日はNHKや上毛新聞から取材を受け、生徒たちはしっかりした受け答えをしてくれました。テレビ・新聞でご覧いただいた方もいらっしゃると思います。



### ◆夏休みの活動を振り返る(職員)

さて、夏休みは私たち教職員にとって「学びの時間」でもありました。コロナ禍対応でオンラインによるものが大半を占めましたが、各種研修を通して多くの知識を吸収し、教員としての資質や専門性を高め、指導力の向上に努めました。

また、オンラインで外部の学校・園の教職員や教育関係者の参加による授業研究会を本校が主催しました。地域の特別支援教育に関するセンター的機能を果たすべく、よい発信ができたように思います。2学期以降の教育活動にフィードバックしてまいります。

### ～寄付をいただきました～

昨年度末、「藤岡障害児者とともにくらす会・クレッシェンド」元代表：木村めぐみ様より多額の寄付をいただきました。年度をまたいでしまいましたが、検討した結果、ビデオカメラ一式を購入させていただき教育活動に活用してまいりたいと思います。